

公益社団法人 日本天文学会 理事会議事録

日 時：2022年5月21日（土）10時00分～12時00分

場 所：日本天文学会事務所（オンライン開催）

出席理事：山本、太田、久保田、町田、鈴木、酒向、鹿野、長瀧、江草、古澤、富田、生田、米原、西、北本、馬場、山村

欠席理事：深沢

出席監事：奥村、花岡

また、佐藤事務長、黒岩事務長補佐、田口谷事務長補佐が出席した。内藤博之国内研修支援金選考委員長が、該当議題部分(II-5)のみ出席した。久保田理事は10時56分からの参加である。

I. 確認事項など

I-1. 議事に先立ち、出席者が19名で定足数を満たし、本会が成立することが確認された。

I-2. 前回議事録の確認

資料2に基づき、前回（2022年3月2日）の理事会議事録が報告され、承認された。

II. 議題

日本天文学会の2021年度事業・会計に関して山本会長が総括し、町田庶務理事に事業報告の説明、酒向会計理事に決算報告の説明をそれぞれ指示した。また、続く各議題に関しても山本会長より提案し、各担当理事に詳細説明を指示した。

II-1. 日本天文学会2021年度事業報告書の承認（資料4、町田）

2021年度の事業報告が説明され、賛成多数で承認された。

II-2. 日本天文学会2021年度決算書の承認（資料5、酒向）

2021年度の決算書が説明された。なお2021年度は、主にCOVID-19の影響で公益目的事業が黒字となり公益社団法人として適正でない状況だが、これは単年度のことでありCovid-19の影響が緩和されると予想される2022年度以降は解消される見込みであることが説明された。

この件は、公認会計士とも密接に相談をしている。決算書は賛成多数で承認された。

II-3. 新規加入者の承認（資料6、鈴木）

2022年2月23日～2022年5月13日までに正会員入会申請44名、準会員入会申請9名の申請があり、賛成多数で承認された。なお前回の理事会で2022年度から[準→正]（14名）として承認された方々が、正しくは[正→準]（14名）移籍の報告であると訂正することが報告された。

II-4. PASJ購読契約での紙版提供停止と今後の紙版の扱いについて（資料7、長瀧）

今後OUP(出版社)でのPASJの紙版の発行は止め、購読契約は電子版のみとすることが提案された。なお紙版に関しては、OUPではなく学会が必要部数のみ印刷し、現在紙版を購読している機関、会員、および、紙版を納本する国会図書館に提供し、先方の不利益にならないよう配慮する予定である。提案は賛成多数で承認された。

II-5. 「国内研修支援金申請書」の変更について（資料8、内藤）

電子的な申請書による応募が可能となるよう、申請書の変更を行うことが提案された。主な変更点は、指導教員の押印を廃止する一方で、メールアドレス欄を追記し、電子的なコメントも可能とすることである。この変更により、申請者数の増加を目指している。理事からは、受入先の教員が申請について把握していることが重要であるとの指摘があった。提案は賛成多数で承認された。

II-6. 研究奨励賞における自薦の取り扱いについて（資料9、鈴木）

研究奨励賞の公募文面に「自薦も可」を明記することが提案された。現在の内規では自薦が禁止されていない一方で自薦可が広く認識されておらず、今後自薦の応募があった場合に潜在的な候補者に不公平が生じる可能性があるための措置であることが説明された。提案は賛成多数で承認された。

II-7. 年会(2023年9月)開催地について（資料11、町田）

2023年秋季年会の開催地として名古屋大学(金田英宏氏が窓口)が提案され、賛成多数で承認された。

III. 報告

III-1. 日本天文学会 2021年度監査報告（資料3、奥村、花岡）

事前に提出された2021年度の事業報告書および財務諸表に基づき、2022年5月13日に監査が開催された。各種事業の運営と予算の執行に基づき、事業報告書および財務諸表が適正に作成されていることを確認したことが報告された。

III-2. 移籍・退会等の報告（資料6、鈴木）

2022年2月23日～2022年5月13日までに移籍（正→準）3名、正会員退会156名、準会員退会44名があったことが報告された。

III-3. 天文教育委員会からの報告（資料11、富田）

2023年秋季年会で予定されている天文教育フォーラム「新しい指導要領を考える(仮)」について紹介された。また、(i)2022年3月2日から5月13日までに講師紹介プログラムに1件、監修者紹介プログラムに2件対応したこと、(ii)男女共同参画委員会との共同で2022年8月にオンライン開催される女子中高生夏の学校に協力予定であること、(iii)IAU OAE（教育のための天文学推進室）の天文教育コーディネーター（NAEC）日本チームの活動状況が、日本天文教育普及研究会でのIAU天文教育コーディネーターWGのウェブサイトに掲載されていること、(iv)科学技術週間に合わせて文部科学省より毎年テーマを変えて発行されている学習資料一家に1枚シリーズについて、天文教育委員の田崎氏らが「ブラックホール」を2023年のテーマにできないか準備しており、文部科学省への提案に際しては天文教育委員会も推薦団体に入る予定であることが報告された。

III-4. 今後の年会進捗状況報告（資料なし、西、北本）

(i)2022年秋季年会(新潟大学でハイブリッド開催)について、大学側からは現時点で会場貸し出しの正式な許可は下りていないが、準備を進めていることが報告された。また、新潟市・新

潟県からの補助金が当初の予定より増額される見込みで、ハイブリッド開催の機器購入を検討していることも報告された。(ii)2023 年春季年季(立教大学)について、会場が確保できており準備を進めていることが報告された。対面開催が維持できた場合でも、懇親会は行わない方針である。

III-5. 年会実行委員からの報告（画面共有資料のみ、古澤）

2022 年秋季年季の開催の現在の準備対応状況が説明された。現地開催の維持の可否が未定であり、事務手続きの都合を加味し、講演登録と参加申し込みの時期を分ける方針である（既に tennet で詳細な情報を会員に共有済）。また、ハイブリッド開催の準備などで事務所と年会実行委員会の仕事量が増大しており、準備体制の拡充と負荷分散を今後検討する。

III-6. 内閣府立ち入り検査に関しての報告（画面共有資料のみ、町田）

2022 年 3 月 25 日 10:00-15:20 に立入検査が行われた。深刻な問題点は指摘されなかった。新設された天文教育普及賞と日本天文遺産は、既存の顕彰制度の一部であるため報告で認めるが、新規の事業を提案する場合は事前に内閣府に相談すること、顕彰事業の採点基準に関する内規等を作成し透明性を担保すること、議事録公開を申請された場合は対応できるように準備すべきであることが指摘された。

III-7. 年会ハイブリッド化タスクフォースからの報告（資料なし、太田）

ハイブリッド方式の問題の論点整理を行っている段階であることが報告された。

III-8. 「現代の天文学」韓国語版に関して（資料なし、山本）

全 17 巻のうち 1-9 巻まで韓国語版が既に出版されているが、適切な翻訳者がいないため 10 巻以降は刊行されないことが報告された。

III-9. 事務所報告（佐藤良）：

特になし。

III-10. 広報担当理事からの報告（生田）：

国際会議 2 件を日本天文学会が共催することが報告された。

[資料リスト]

資料 1 理事会出欠表

資料 2 公益社団法人日本天文学会理事会（2022 年 3 月 2 日）議事録（案）

資料 3 公益社団法人日本天文学会 2021 年度 監査報告書

資料 4 公益社団法人日本天文学会 2021 年度事業報告書（案）

資料 5 公益社団法人日本天文学会 2020 年度決算報告書（案）

資料 6 加入者の承認、移籍の承認・報告、退会の報告

資料 7 PASJ 編集委員会からの議題と報告

資料 8 「国内研修支援金申請書」の変更について

資料 9 研究奨励賞における自薦の取り扱いについて

資料 10 天文教育委員会より、前回理事会（2021 年 9 月 13 日）以降の活動報告（2021 年 12 月 15 日現在）

資料 11 年会(2023 年 9 月)開催地について

2022年5月21日

会 長：山本 智 印

副会長：太田 耕司 印

監 事：奥村 幸子 印

監 事：花岡 庸一郎 印